

採集ノート (3)

渡辺定路

(1) フタツキジノオ

Plagiogyria × *sessifolia* Kurata

遠敷郡名田庄村納田終 1977. 10 / 9 (No. 14530)

キジノオシダとオオキジノオシダの雑種で、栄養葉の羽片が中軸に流れつく場合は両者の中間形を呈する。今後この両種の混生地では再確認が期待される。

(2) ミヤコイヌワラビ

Athyrium frangulum Tagawa

南条郡今庄町大河内 1976. 7 / 4 (No. 13838)

ホソバイヌワラビによく似ているが、各部分はやわらかく、小羽片は左右同形に近く、より陰湿な所に生育する。

(3) ヘビホソバイヌワラビ

Athyrium × *inouei* Kurata

遠敷郡名田庄村一ツ谷 1977. 9 / 25 (No. 14523)

ヘビノネゴザとホソバイヌワラビの雑種で、小羽片はヘビノネゴザより巾広く、小羽片・裂片の中肋の分岐点の表面にはやわらかい刺があり、両者の中間形を呈する。

(4) ナンキイヌワラビ

Athyrium × *minakuchii* Kurata

遠敷郡名田庄村一ツ谷 1977. 9 / 25 (No. 14520. 14526)

タニイヌワラビとヘビノネゴザの雑種で葉柄基部の鱗片にヘビノネゴザと同様な中央部が濃褐色のものがつく。小羽片の基部の裂片にはへの字に曲ったソーラスがつくなど両種の形質がよく出ている。

(5) ヤマタニイヌワラビ

Athyrium × *quaesitum* Kurata

遠敷郡名田庄村虫谷 1977. 8 / 6 (No. 14651)

タニイヌワラビとヤマイヌワラビの雑種でナンキイヌワラビよりは判別しにくい。

(6) オオカラクサイヌワラビ

Athyrium × *takashikii* Kurata

遠敷郡名田庄村一ツ谷 1977. 10 / 9 (No. 14650)

カラクサイヌワラビとヒロハイヌワラビの雑種で、両種の中間形を呈する。今回二株確認できた。

(7) シモダカナワラビ

Arachniodes × *sasamotoi* Kurata

三方郡三方町石観音 1977. 10 / 10 (No.14694)

オニカナワラビとホソバカナワラビの雑種で、石観音に一群落が自生している。

(8) セイヨウカラシナ

Brassica juncea (Linn.) Czern.

福井市明治橋付近 1977. 5 / 22 (No.14508)

明治橋の西側の堤防上に大群落を形成している。7～8年前あったセイヨウアブラナはほとんど姿を消してしまった。セイヨウアブラナの茎の上部の葉は茎を抱くが、セイヨウカラシナの葉は茎を抱かないことや、花卉が前者より小さい点などで区別できる。帰化植物。

(9) ケシロモジ

Prabenzoin trilobum Nakai form. *pilosum* (Koidz.) Sugimoto

大野市小沢(蠅帽子川) 1971. 9 / 5 (No.11720) 1977. 7 / 31 (No.14439)

葉の裏面に毛の多い型。

(10) ビロードエノキグサ

Acalypha australis Linn. form. *velutina* (Honda) Ohwi

福井市体育館横 1976. 10 / 17 (No.14007)

毛がやや開毛する型。

(11) ヒロハヒルガオ

Calystegia sepium (Linn.) R. Br. var. *americana* (Sims) Matsuda

大飯郡大飯町野尻 1977. 8 / 6 (No.14228)

山地に生え、葉は長さ3～5㎝の柄があり、葉身は三角状ほこ形で先はとがる。花はほとんど白色である。

野尻の山中で1株確認した。

(12) シロバナサンインヒキオコシ

Isodon shikokiana (Makino) Hara var. *occidentalis* Murata

form. *albiflorus* Murata

武生市若須岳 1977. 10 / 16 (No.14637)

サンインヒキオコシの白花品。

(13) アメリカアゼナ

Lindernia dubia (Linn.) Pennell

三方郡美浜町久々子 1977. 6 / 18 (No.14410)

茎は方形で、多くの気道は放射状に並ぶ。雄しべは4本、下方につく2本は長くて薬がない。アゼナの雄しべは4本とも薬があり、果実は円味を帯びる。河辺や水田の湿地に自生、花期は夏～秋。

北米原産の帰化植物。

(14) オオアカネ

Rubia hexaphylla (Makino) Makino

大野市経ヶ岳 1973. 7 / 2 2 (No.12522)

アカネより大形で、茎の葉は6個を輪生し、心形または卵心形で長柄があり、基部は心形をなし、5~7脈をもち、長さ5~13㎝、幅3~7㎝である。

(15) オトコオミナエシ

Patrinia hybrida Makino

南条郡河野村赤萩 1974. 9 / 3 0 (No.13062)

オトコエシとオミナエシの雑種と考えられるもの。

(16) キゾメカミツレ

Anthemis arvensis Linn.

坂井郡金津町金津 1976. 6 / 1 3 (No.13830)

地中海沿岸地方原産の帰化植物。葉には長毛が散生し、もめばキクの香りがある。総苞片は2~3列に並び先は円く、外面には長い毛が生える。カミツレモドキは葉裂片が糸状で、舌状花に雌ずいがない。

(17) ケナシヒメムカシヨモギ

Erigeron pusillus Mutt.

福井市橋屋町 1976. 8 / 1 7 (No.14016)

北米原産の帰化植物で、本州中部以南から四国・九州の沿海地に多く分布している。ヒメムカシヨモギとの相違点は総苞片が無毛であること、全体がやせた感じで茎葉は無毛または毛があってもごく少ないことである。

(18) ヘラバヒメジョン

Erigeron strigosus Muhl

福井市体育館横 1976. 6 / 1 7 (No.13952)

ヒメジョンによく似ているが、根生葉はへら形で少数のきょ歯があるか、またはきょ歯を欠く。茎上の葉もへら形で細く、ほとんどきょ歯がない。生育地はヒメジョンよりやせて乾いた土地を好む性質がある。

(19) ネズミホソムギ

Lolium hybridum Hausskn.

武生市村国町日野川堤防 1976. 6 / (No.13689)

坂井郡金津町柿原 1976. 6 / 1 3 (No.13826)

ホソムギとネズミホソムギの雑種。欧州原産の帰化植物。イタリアン・ライグラスの名で牧草に用いられている。

(20) ホソムギ

Lolium perenne Linn.

坂井郡丸岡町竹田 1972. 6 / 1 1 (No.9832) 7 / 2 (No.9864)

欧州原産の帰化植物で、ペレニアル・ライグラスの名で牧草に用いられている。
以上のものは福井県初記録である。

新産地報告

(1) カタイノデ *Polysticum makinoi* Tagawa

このイノデは齊藤芳夫氏が大野市荒島岳の鬼谷で採集されたものであります。昨年10月16日に武生市の若須岳で採集。自生地は海拔150米ぐらいの杉林で、1株のみであった。

(2) タマミズキ *Ilex micrococca* Maxim.

いままでの産地は名田庄村虫鹿野であったが、昨年名田庄村一ツ谷で採集(10月9日)。

(武生高等学校)